



# 朝一小だより

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和5年7月1日

児童数 583名



## 伝えることの難しさ

校長 金子 二郎

早いもので令和5年も半年が経過し7月となりました。5月の大型連休明けからぐずついた空模様の週末が少なくありませんが、夏本番の日差しが照り付ける梅雨の中休みの日もあります。夏風邪で体調を崩すだけでなく、俄かに熱中症が心配になりつつあります。保護者や地域の皆様におかれましては、お変わりございませんでしょうか。4月から皆様には様々な面でご理解と協力をいただき、一学期を送ることができています。夏休み前最後の月を健やかでさらに充実したものにできればと存じます。



今年度、学校においてはマスクを外すことを基本として指導しており、このところはマスクを使わない児童が多数を占めるようになってきました。全国的に見ると陽性者が少しずつ増えていることもあり、社会的にはまだマスクを外せない若年層の割合が少なくないようです。以前、今どきの高校生の恋愛事情について、

「デートをする時は午後からを希望する子」「告白されて返答に困る子」が増えているという話題をラジオ番組で紹介していました。午後からにしたい理由は、「食事の際にマスクを外した顔を見られるのが恥ずかしい」ので昼食後に、そして返答に困るのは、「相手の顔の下半部を知らないから」とのこと。「見えないから」と「見えるのが恥ずかしいから」のいずれもあるようです。大人の世界でも変化が見られ、逆に営業やプレゼンテーションが上手くいくようになったと手応えを感じている人が増加したとのことです。心理学が専門の池内裕美関西大学社会学部教授は、マスクを着けていると表情で相手に心を読まれにくくなるため、自信を持てるようになってきているのではと説明しています。



もちろん日常的にマスクを着けることによるコミュニケーション上の不自由さもあります。特に欧米では相手の気持ちを読み取る際に口元を重視するため、相手の表情が伝わりにくいといえます。一方、日本では口元より目の表情を重視します。「目は口程に物を言う」の通り日本では感情を目で表現しますが、表情が伝わるかどうかという点で、マスクが大きな影響を及ぼしているのは事実のようです。

ただ落ち着いて考えてみると、マスクを外せるようになったものの、コミュニケーションが格段にスムーズになったとは必ずしも言えないようです。学校では生活経験が少ない子供を相手に話をする時間が圧倒的に長く、大人の言葉が100%相手に伝わっていることはむしろ稀です。「分からないのは相手が悪いのではない」と謙虚にならなければなりません。思いつきではなく慎重に言葉を選び、時には身振り手振りを交え、聞く側に期待するだけでなく「伝える努力」をし続けなければなりません。同様に、不十分な相手の言葉から「私に何を伝えようとしているのか」を粘り強く探り出す努力も必要です。マスクの着用をきっかけに、お互いの考えを伝え合うことの難しさをあらためて考えさせられました。



人の言に耳を傾けない態度は、自ら求めて心を貧困にするようなものである (松下幸之助)